

京都府のこれからの文化行政が目指す姿と施策の方向性 (議論のためのたたき台)

目指す姿

<保存・継承>

古くから伝わる文化芸術や文化材、生活文化等がしっかりと守り、継承され、暮らしの中に定着している

<創造>

これまでの文化の蓄積の上に、異文化との交流や先端技術の活用等により、常に新たな文化芸術が文化芸術が創造、発信されている。

<共生>

文化芸術を通して社会参画の機会がひらかれ、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されている。

<イノベーション・活力>

創造的な文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれる、活力ある社会が形成されている。

<プラットフォーム>

文化芸術関係団体や文化庁、京都・関西の経済団体等とのネットワークが構築され、多様な人材の育成が進んでいる。

施策の方向性

伝統的な文化芸術や文化財等をしっかりと守り、継承するとともに、次代を担う人材を育成する。

地域が守り育ててきた固有の文化資源の再評価を進め、資源を活用して地域の価値を高め、地域の活性化を図る。

海外の異文化や多種多様な文化芸術が分野にとらわれず幅広く交流する中で、常に新たな文化が創造、発信される社会を構築する。

性別、年齢、障害の有無、地理的な状況、言語等の区別なく、誰もが等しく多様な文化に親しみ、参加し、創造できる環境を整備する。

文化芸術を観光、まちづくり、産業、福祉、教育など様々な分野に活かして、文化への投資を強化し、文化力による経済効果を向上する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック等の外国人訪日客等に対し多言語対応などおもてなしや文化発信力を強化し、文化首都・京都として日本文化の国際的な評価を確立する。

文化芸術の振興を持続的に図る専門人材の育成を進めるしくみを構築する。

美術館等や文化団体が安定した運営が図れるよう、相互に連携・協力をを行うネットワークを構築する。